

<主要株価指数>		
	終値	前日比
日経平均※	17742.97	79.75
N Y ダウ	17,879.55	102.75
D A X (独)	9,934.08	-29.43
FTSE100 (英)	6,742.10	85.73
CAC40 (仏)	4,388.30	10.97

<外国為替>※		
ドル円	119.21 円	0.00 円
ユーロドル	1.2383 ドル	0.00 ドル

<長期金利>※		
日本	0.447 %	0.023 %
米国	2.292 %	0.057 %
英国	1.969 %	0.071 %
ドイツ	0.741 %	0.013 %
フランス	1.013 %	0.024 %
イタリア	2.011 %	-0.004 %
スペイン	1.851 %	0.012 %

<商品>		
N Y 原油	66.88 ドル	-2.12 ドル
N Y 金	1199.20 ドル	-18.80 ドル

※は右上記載時刻における直近値。図中の点線は前日終値。  
(出所) Bloomberg

日経平均株価 13:53 現在

N Y ダウ平均株価

USD/JPY

### 【海外株式市場・経済指標他】 ～自動車販売台数：好調そのもの～

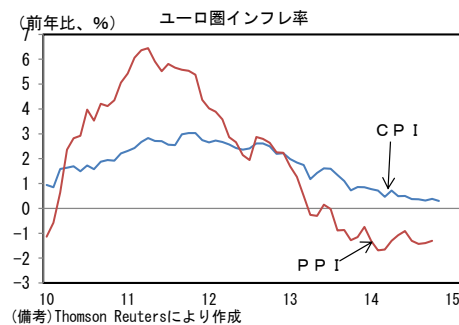
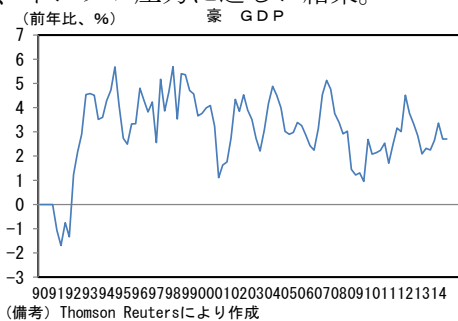
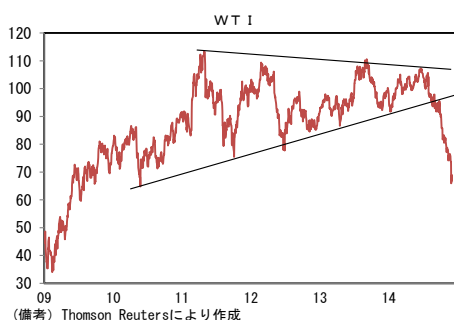
- ・米国株式市場は反発。N Y ダウは最高値更新。
- ・11月米新車販売台数 (SAAR) は1720万台と市場予想 (1670万台) を上回った。景気後退後のピークを記録した8月水準に肉薄、過去数ヶ月に示された消費者の楽観的な将来見通しが反映された格好。ベースとなる雇用・所得環境の回復が力強さを増しているほか、既往のガソリン安が追い風になったとみられる。先行きもガソリン価格下落による実質購買力増加が自動車を中心に耐久財消費を押し上げよう。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

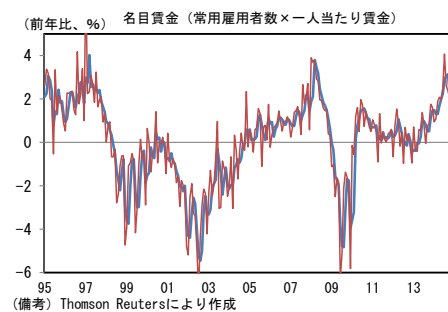
## 【外国為替相場・債券市場】～ユーロ圏PPI:弱いインフレ圧力～

- ・前日のG10通貨はUSDが全面高。米国時間早朝から米金利が上昇、主要通貨全般でUSD買いが優勢。USD/JPYは欧州時間から上昇開始、米金利が上昇するなか米国時間入り後に119を回復。経済指標は、豪GDP(3Q)が前期比+0.3%、前年比+2.7%とそれぞれ予想(+0.7%、+3.1%)を大幅に下振れ。AUDは急落。
- ・米10年金利は前日比+5.7bpの2.292%。原油価格下落を通じたインフレ圧力低下はあまり意識されず、反対にそれによる景気刺激効果が意識されたとみられる。またFED高官が原油価格下落を利上げの重要な判断材料にしないとの見方を示していることも意識された模様。要人発言では、IMFラガルド専務理事が原油価格下落は世界経済にポジティブであるとの見方を示したほか、フィッシャーFRB副議長、ラッカー・リッチモンド連銀総裁、(引け後には)ダドリー・NY連銀総裁も原油価格下落による景気押し上げ効果に言及。フィッシャー副議長は声明文から”considerable time”を削除する時期が近付いているとの認識を示した。欧州債市場は小動き。欧州時間にECB理事会を控えて追加緩和期待が高まるなかで堅調に推移したが米国時間に入ると軟調な米債に追随。経済指標は10月ユーロ圏PPIが前月比▲0.4%、前年比▲1.3%となりCPIと同様、インフレ圧力に乏しい結果。



## 【国内株式市場・経済指標他】～毎勤統計：賃金上昇が継続～

- ・日本株は米株高、USD/JPY上昇を受けて高寄り後、もみ合い。
- ・昨日発表の毎月勤労統計によると現金給与総額は前年比+0.5%と8ヶ月連続で増加。所定外給与(+1.9%→+0.4%)の伸び率縮小により全体の伸び率は鈍化した。最重要項目の所定内給与は+0.4%と堅調で内容は悪くない。常用雇用者数をみても一般労働者数が+1.5%と強く伸びておりポジティブ。マクロ賃金(常用雇用者数×一人当たり賃金)は+2.0%と引き続き(消費増税を除いたベースで)インフレ率以上の伸びを確保。
- ・11月日本サービス業PMIは50.6と前月から1.9ptも改善して50を回復。天候要因の逆風が後退するなか、消費増税の影響に漸く一服感がみられた格好。円安の悪影響が表面化している様子は見受けられない。
- ・11月中国サービス業PMIは53.9と前月から0.1pt改善。HSBC版のそれも53.0と0.1pt改善。製造業とは対比的に底打ち感がみられる。



## 【注目点】～十分な所得と楽観的将来見通し～

- ・3日午前にUSD/JPYは一時119半ば付近まで上伸。今後、多少のスピード調整は必至とみられるが、目下の米景気の強さが続く限りUSD/JPY上昇基調が継続するとの見方に変更を加える必要はないだろう。直近の米指標に目を向けると好調そのもの。11月ISM指数は10月の59.0に続き58.7と4%超のGDP成長率と整合する強さを記録し、製造業セクターの活況を反映。11月自動車販売台数は、ガソリン価格下落という追い風が吹くなか、消費者が十分な所得と楽観的な将来見通しの下で選択的支出に積極的であることを再確認させた。高額耐久消費財(自動車)の販売が好調であることは何よりも米経済の強さを物語っており、それは同時にUSD高継続を見込む筆者シナリオを強くサポートする材料でもある。